

短報

京都府から相次いで発見されたウスキムヨウラン(ラン科)

中村康則¹・萬野日出人²・末次健司³・池田 博⁴Recent discoveries of *Lecanorchis kiusiana* Tuyama (Orchidaceae) from Kyoto Prefecture, JapanYasunori NAKAMURA¹, Hideto MANNO², Kenji SUETSUGU³, and Hiroshi IKEDA⁴

Abstract: *Lecanorchis kiusiana* Tuyama, a mycoheterotrophic perennial orchid, was collected in Kyoto Prefecture, western Japan. It is the second record for this species from Kyoto Prefecture. The two localities of *L. kiusiana* in Kyoto Prefecture are quite recent discoveries, probably caused by several reasons, including global warming.

Key words: global warming, Kyoto Prefecture, *Lecanorchis kiusiana*, mycoheterotrophic plant, new locality, Orchidaceae.

I. はじめに

ラン科ムヨウラン属のウスキムヨウラン(ウスギムヨウラン)*Lecanorchis kiusiana* Tuyamaは、地生の菌従属栄養植物である。本種は、Tuyama(1955)により九州産の標本から記載されたもので、日本国内では本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布し、海外では韓国済州島に分布する(Hashimoto 1990, 遊川 2015, Suetsugu et al. 2017)。本種は、近年、京都府京田辺市から記録された(福永ほか 2017)。筆者の一人中村も、2017年に本種を京都府西京区で確認したので報告する。

II. 生育地と周辺環境

ウスキムヨウランが生育していたのは、京都市西京区にある大原野神社の社叢周辺で、平坦な樹林内だった。生育地はツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottkyを優占種とする常緑広葉樹林内で、落葉や落枝の堆積する林床に十数株ほどが疎らに生育していた(Fig. 1)。花茎の高さは10-20cmで、茎の先に3-5個の花を総状につけていた。花は淡黄色で平開せず、長さ12-15mm、唇弁は先が浅く3裂し、縁に乳頭状の突起が生え、突起の先は淡紅紫色を帯びていた。

京都府に生育するムヨウラン属植物としては、ムヨウラン *Lecanorchis japonica* Blume、ホクリクムヨウラン *L. hokurikuensis* Masam., エンシュウムヨウラン

L. suginoana (Tuyama) Seriz., そしてクロムヨウラン *L. nigricans* Hondaが記録されていた(竹内 1962, 村田 1988, 京都府環境部自然環境保全課 2015a, b, 田中・山田 2016)。福永ほか(2017)は、2016年に京都府京田辺市でウスキムヨウランを採集し、報告している。これが京都府におけるウスキムヨウランの最初の報告と考えられる。したがって今回の発見は、京都府におけるウスキムヨウランの二番目の報告となる。村田(1988)は、近畿地方におけるウスキムヨウランの産地について、和歌山県と三重県を挙げており、また近年、奈良県では絶滅危惧種として選定されている(奈良県景観・自然環境課 2016)。これらのことから、現在のところウスキムヨウランは近畿地方では4県に分布すると考えられる。

III. 考察

近年、本来南方系の植物が分布を北に広げていると考えられる例が多く知られている。勝山・田中(2009)は、神奈川県に生育する植物のうち、分布を拡大しているラン科植物として、タシロラン *Epipogium resem* (D. Don) Lindl., マヤラン *Cymbidium macrorhizon* Lindl., ヒメノヤガラ *Chamaegastrodia sikokiana* Makino et F. Maek., カゲロウラン *Zeuxine agyokwana* Fukuy., ムカゴサイシン *Nervilia nipponica* Makino, ハチジョウシュスラン *Goodyera hachijoensis* Yatabeを挙げている。同様な傾向は、近畿地方にお

1. 〒617-0826 京都府長岡京市開田3-11-11 Kaita 3-11-11, Nagaokakyo-shi, Kyoto-fu 617-0826, Japan.

2. 〒330-0071 埼玉県さいたま市浦和区上木崎1-14-6 株式会社CTIアウラ CTIAURA Co., Ltd., Kami-kizaki 1-14-6, Urawa-ku, Saitama-shi, Saitama-ken 330-0071, Japan.

3. 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院理学研究科 Graduate School of Science, Kobe University, Rokkodai 1-1, Nada-ku, Kobe-shi, Hyogo-ken 657-8501, Japan.

4. 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合研究博物館 The University Museum, The University of Tokyo, Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo-to 113-0033, Japan.

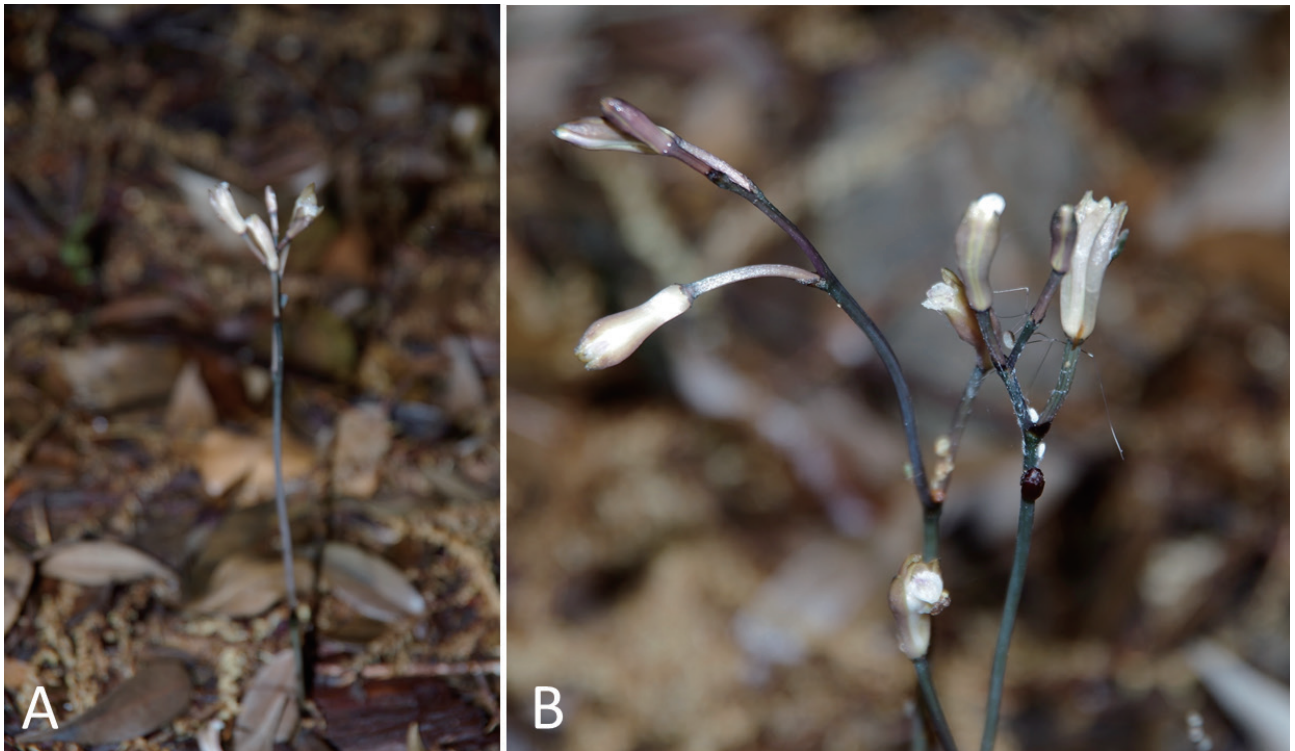


Fig. 1. *Lecanorchis kiusiana*. A. Flowering stem with flowers. B. Flowers. (Oharano Shrine, Kyoto, 1 June 2017, by Y. Nakamura).

いても見て取ることができる。村田(1987, 1988, 1989)は、近畿地方に産するラン科植物をリストし、おのおの種が産する府県を挙げている。しかし、そこでは産地として挙げられていなかった府県が、近年の近畿地方の府県別レッドデータブックに掲載されているものも多い(兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課 2010, 大阪府みどり推進室みどり企画課 2014, 京都府環境部自然環境保全課 2015a, b, 滋賀県自然環境保全課 2010, 奈良県景観・自然環境課 2016, 和歌山県環境生活総務課 2012, 三重県みどり共生推進課 2015)。たとえばタシロランとムカゴサイシンは、村田(1988)では和歌山県のみが挙げられているが、タシロランは京都府、滋賀県、奈良県、三重県からも報告されており、ムカゴサイシンは兵庫県、大阪府、京都府、三重県からも報告されている。兵庫県の摩耶山から報告されていたマヤラン(Makino 1904)も、村田(1987)では大阪府のみが挙げられているが、近年では京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、三重県からも報告されている。また、カゲロウランとクロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Y. Sawa は、村田(1987, 1989)にはリストされていないが、カゲロウランは和歌山県から、クロヤツシロランは大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、三重県からの報告がある。ウスキムヨウランについても、近年になり奈良県と京都府で相次いで発見されたこと、および京都府より北の北陸地方からの報告がないことなどから、最近になって分布を北

に拡大している可能性がある。

山本ほか(2016)は、関東地方におけるタシロランの分布の変遷を考察し、その要因として 1) 地球温暖化により、南方系の植物が生育できる環境が北に広がっていること、2) 森林の放棄が進み、生育に適した鬱閉した林床をもつ常緑広葉樹林の面積が拡大していること、3) ラン科植物の種子は小さく軽いために、風により容易に種子が散布されること、を挙げている。近畿地方においても、同様の要因により、ラン科植物が分布を北に拡大させている可能性がある。

ウスキムヨウランは、全国版レッドリスト(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2015)において準絶滅危惧種(NT)に選定されており、生育の認められる都府県ではほとんどの絶滅危惧種に選定されている。今後の分布変遷を含め、保全活動も視野に入れた継続的なモニタリングが望まれる。

Voucher specimen: Japan. Kyoto: Saikyo-ku, Oharano Shrine, 130 m alt. (Y. Nakamura 17060101 (TI00014875), 1 June 2017, TI).

引用文献

- 福永裕一・末次健司・光田重幸(2017). ウスキムヨウラン(ラン科)を京都府に記録する. 分類 17: 167-171.
- Hashimoto, T. (1990). A taxonomic review of the Japanese *Lecanorchis* (Orchidaceae). Ann. Tsukuba Bot. Gard.

- 9: 1-40.
- 兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課(編)(2010). 兵庫県版レッドデータブック2010(植物・植物群落). 財団法人ひょうご環境創造協会, 神戸.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)(2015). レッドデータブック2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 8 植物 I(維管束植物). ぎょうせい, 東京.
- 勝山輝男・田中徳久 (2009). 神奈川県 of 植物分布からみた温暖化の影響. かながわのいきもの「いま・むかし」シンポジウム報告書, p. 52. 神奈川県地球温暖化防止活動推進センター, 横浜.
- 京都府環境部自然環境保全課(編)(2015a). 京都府レッドデータブック2015. 京都府環境部自然環境保全課, 京都府.
- 京都府環境部自然環境保全課(編)(2015b). 京都府自然環境目録2015. 京都府環境部自然環境保全課, 京都府. (インターネットにより閲覧可 <http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/mokuroku/index.html>)
- Makino, T. (1904). Observations on the Flora of Japan. Bot. Mag. (Tokyo) 18: 103-115.
- 三重県みどり共生推進課(編)(2015). 三重県レッドデータブック2015~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 三重県みどり共生推進課, 三重県.
- 村田 源(1987). 近畿地方植物誌29. 兵庫生物 9(3): 157-158.
- 村田 源(1988). 近畿地方植物誌30. 兵庫生物 9(4): 231-232.
- 村田 源(1989). 近畿地方植物誌31. 近畿植物同好会々誌 (13): 17-22.
- 奈良県景観・自然環境課(編)(2016). 奈良県レッドデータブック2016改訂版. 奈良県景観・自然環境課, 奈良県.
- 大阪府みどり推進室みどり企画課(編)(2014). 大阪府における保護上重要な野生生物 レッドリスト. 大阪府みどり推進室みどり企画課, 大阪府.
- 滋賀県自然環境保全課(編)(2010). 滋賀県で大切にすべき野生生物(滋賀県版レッドデータブック). サンライズ出版, 彦根市.
- Suetsugu, K., Hsu, T. C. and Fukunaga, H. (2017). Lectotypification of *Lecanorchis ohwii* (Vanilleae, Vanilloideae, Orchidaceae) with discussions of its taxonomic identity. Phytotaxa 309: 259-264.
- 竹内 敬(著)・花明山植物園(編)(1962). 京都府草木誌. 宗教法人大本, 亀山.
- 田中光彦・山田良之. 2016. 近畿におけるエンシウムヨウランの新産地. 近畿植物同好会々誌 39: 27-28.
- Tuyama, T. (1955). A new saprophytic orchid, *Lecanorchis kiusiana*. J. Jpn. Bot. 30: 181-187.
- 和歌山県環境生活総務課(編)(2012). 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-【2012改訂版】. 和歌山県環境生活総務課, 和歌山県.
- 山本伸子・天野 誠・池田 博・任 炯卓(2016). 千葉県南房総市でタシロランを採集する. 千葉生物誌 65(2): 43-49.
- 遊川知久(2015). ラン科. 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩(編), 日本の野生植物 1: 178-231. 平凡社, 東京.

(2017年12月21日受理)